令和６年３月

Dフリーの活用について

ICTの活用を通して業務の効率化を図り、利用者の快適な排泄ケア実現し、
豊かな暮らしを考える

社会福祉法人かながわ共同会

愛名やまゆり園

神奈川県　介護ロボット・ICT普及推進の取組について

- **介護ロボット・ICTを活用した介護職員の負担軽減**
- 　高齢者への適切な介護サービスを提供するため、介護ロボット・ICTを導入することで、介護職員の身体的・精神的負担軽減を図り、介護現場に時間的・心理的余裕を生じさせ、利用者の安心感が増すように取り組むことが重要です。
- 　特に、新型コロナウイルス感染症の拡大による職員体制の縮小や感染症対策への業務負荷が増えている現状を踏まえ、介護ロボット・ICTの導入より更なる職員の負担軽減や業務効率化を図る必要があります。
- ※神奈川県ホームページより引用

ICTを施設で暮らしている利用者の生活場面で生かせないか

- ≪現状≫
- 寮で暮らしている利用者の多くが、車椅子で生活しており、オムツやリハビリパンツを使用している方、支援者がトイレ誘導している方が殆どである。
- 定時でトイレ誘導している方の中には、本人のトイレのタイミングと合わない場合がある。
- なるべくおむつやパットを使用する機会を少なくして、本人の尊厳を守れないか。

- ≪改善したい点≫
- 個々の排泄のタイミングが分かれば、個別にトイレ誘導できるのではないか。
- トイレのタイミングが分かれば、オムツを使用しないで過ごせる時間が増えるのではないか。
- トイレ誘導の時間に全員のトイレ誘導、排泄ケアをするのではなく、個別に対応できないか。

D FREEを導入するまで

- 福祉機器展で知り、R5年４月に幹部職への説明会、その後の会議後に業者による説明会とデモンストレーションを実施。
- 5月に試行したいセクションを決定し、業者より会議日に課員へ機器の紹介、使用方法についてレクチャーを受ける。
- 5月下旬に2週間程度、２名の対象者に試行してから使用感を振り返り、本格的に導入することとなった。本格的に導入してからは、１名の方に使用する。
- ※家族にも説明し、試行の承諾をいただいた。

D FREEについて

- DFreeは、Diaper Free＝「おむつ要らず」という意味。
- 10段階で尿のたまり具合を表示する。７段階を超えるとアプリを通じて通知がくる。
- 機器は複数人で使用可能。完全防水、アルコール消毒OK。
- 機器（写真）を下腹部に直接装着する。接着するのにジェルを使用。（超音波で膀胱観察）
- アプリを通じて膀胱への尿のたまり具合が可視化される。
- これまで導入された施設では、利用者が機器を外してしまったという事例はあまり聞かない。
- 失禁が46％減する例がある。

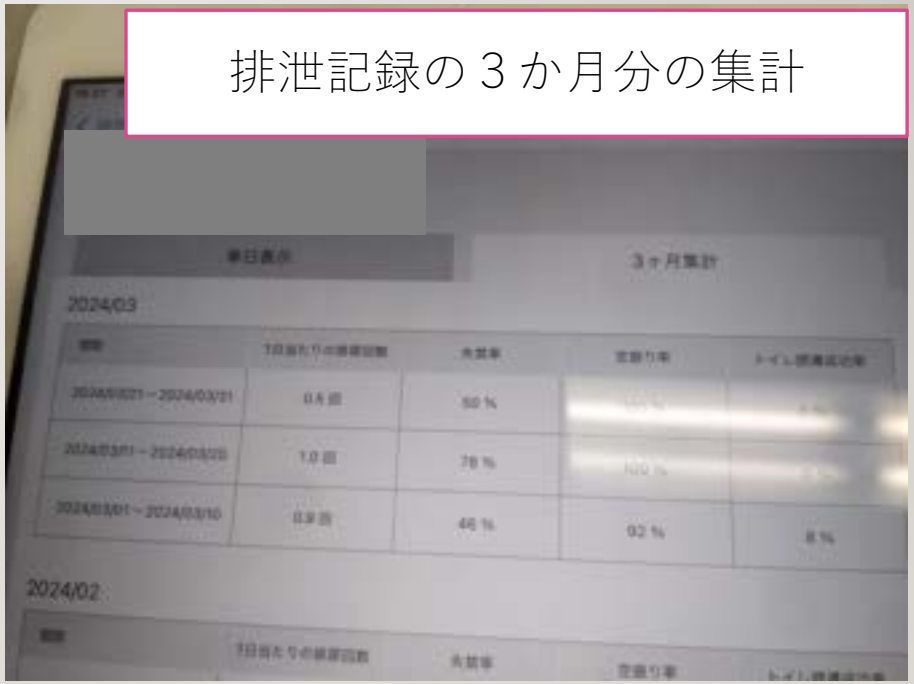
D FREEを使い、排泄ケアをアセスメントする

- 専用のアプリケーションで排泄記録を積み重ねていく。
- 排泄はリアルタイムでグラフ化されるので可視化できる。
- 「そろそろ通知」で排尿前のトイレ誘導時のタイミングを知らせてくれる。
- グラフが下がると「出たかも通知」が届き、パット交換の目安を知らせてくれる。

最初はなかなかタイミングがつかめないが、
時々タイミングが合い、
トイレで排泄が出来る時も少しずつ出てきた。
対象の方は、排泄のタイミングが日によって差異が大きく、なかなかトイレでの排泄が成功しないため、長期的にアセスメントしていくことが必要。

D FREEの活用を継続した結果、今後の展開について

- 排泄記録を蓄積できたが、まだまだ機能を十分に活用しきれていない。支援者がこうした機器に慣れていくためにも継続的に活用していくことが大切。
- 本人の排泄の傾向を分析し、最終的にはオムツやパットの使用を軽減していきたい。
- 排泄は生理現象であるがデリケートなものであることを共通理解し、その人の自尊心を保つために可能な限りその人らしい自立を目指していく。



排泄記録の３か月分の集計